

【法蔵館文庫】

原典訳 マハーバーラタ4

インド古典

かみむら かつひこ

上村勝彦訳

▼文庫判・並製カバー・656頁・定価二、四二〇円

2026年2月刊行



古代インドに産声を上げ、いまなお人々の心に生き続ける世界最長の叙事詩。信頼すべきサンスクリット原典訳の待望の復刊。【全8巻】

【4巻あらすじ】 五王子が国外追放となり十三年目。カルナは生まれながらに身につけていた鎧と耳環と引き換えに、的を外さぬ槍をインドラ神から授けられる。五王子らは各々に変装をしてヴィラータ王の宮廷に潜伏する。ドラウパディーに邪恋を抱いた將軍キーチャカがビーマによって殺害されると、その噂を知ったクル・トリガルタ連合軍がヴィラータの都を急襲。だが女形に変装していたアルジュナがクル軍を敗走させ、ついに約定の十三年が満了する。

【目次】

家系図

主要登場人物

マハーバーラタ関連地図

第3巻 森林の巻(ヴァナ・パルヴァン) 続き

- (37) マールカンデーヤとの会合(第百七十九章―第二百二十一章)
- (38) ドラウパディーとサティヤバーマーとの対話(第二百二十二章―第二百二十三章)
- (39) 牧場視察(第二百二十四章―第二百四十三章)
- (40) 鹿の夢(第二百四十四章)
- (41) 一杓の米(第二百四十五章―第二百四十七章)
- (42) ドラウパディー強奪(第二百四十八章―第二百八十三章)
- ラーマ物語
- サーヴィトリ物語
- (43) 耳環の奪取(第二百八十四章―第二百九十四章)
- (44) 火鑽棒(ひきりぼう)(第二百九十五章―第二百九十九章)

第4巻 ヴィラータ王の巻(ヴィラータ・パルヴァン)

- (45) ヴィラータ王(第一章―第十二章)
- (46) キーチャカ殺し(第十三章―第二十三章)
- (47) 牛の略奪(第二十四章―第六十二章)
- (48) アビマニユの結婚(第六十三章―第六十七章)

【訳者略歴】

上村勝彦(かみむら かつひこ)

一九四四年、東京浅草に生まれる。一九六七年、東京大学文学部卒業。一九七〇年、同大学院人文科学研究所(印度哲学)修士課程修了。サンスクリット詩学専攻。元東京大学東洋文化研究所教授。
主な著書に、『屍鬼二十五話』(平凡社東洋文庫)、『カウティリヤ実利論』(岩波文庫)、『インド神話』(ちくま学芸文庫)、『始まりはインドから』(筑摩書房)、『インド古典演劇論における美的経験』(東京大学出版会)、『バガヴァッド・ギーター』(岩波文庫)、『インド古典詩論研究』(東京大学出版会)、『真理の言葉・法句経』(中央公論新社)などがある。
二〇〇三年、逝去。

注文書	
(書店印)	様冊
ご注文	法蔵館
上村勝彦訳	定価 二、四二〇円
原典訳 マハーバーラタ4	住所
【法蔵館文庫】	お電話
ISBN : 978-4-8318-2716-6 C0198	お名前

ご注文はFAX:075-371-0458

法蔵館

〒600-8153 京都市下京区正面通烏丸東入
TEL 075-343-0458 FAX 075-371-0458
<http://www.hozokan.co.jp> info@hozokan.co.jp